これからのへき地・複式・小規模校教育（下）

北海道教育大学　へき地・小規模校教育研究センター
センター長・副学長　玉井　康之

National Institute for
School Teachers
and Staff Development

独立行政法人教職員支援機構

目次

Ⅰ．へき地校のマイナス面と言われることについて
Ⅱ．へき地校の特性として活かしやすい雰囲気を大切にする
以上　（上）

Ⅲ．学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営
以上　（下）

※本講義では、へき地教育の基本的な特徴とへき地教育を捉える観点、及び学級経営の在り方を中心にして講義したいと思います。

※校種別・学校別にも状況は異なるので、一般的な特性と方向性を確認していきたいと思います。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

〈問題提起〉

〇建設的な異論・提案は許されることを確認して、異論を出させるように促すためにはどのようにすればよいか。

〇無意識に一致していることを善としてしまい、異なる発想を出させる必要性を感じなくなっていないか。

〇馴れ合いではなく、フォーマルな発言・発表の機会を増やし、フォーマルな発言ができるようにするためにはどのようにすれば良いか。

〇異年齢のリーダー・フォロアーの関係を高めるためにはどのようにすれば良いか。

〇少人数であっても、日常的な学級の生活習慣ルール・運営ルールを自ら実行させるためにはどのような学級運営のルールを推進すれば良いか。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

1．少人数を活かした指導と社会性を伸ばすへき地・小規模校教育の可能性

（1）少人数の接触頻度効果を活かし建設的に高め合う小規模学級集団づくり

〇馴れ合いにならないような建設的な関係をどのようにしているか。
〇責任者と協力者の役割を明確にし、集団運営の原則と規律を高めるためにはどのようなことを施しているか。

①心理学的に見た15人以下の少人数の可能性⇒顔が相互に見えて全員が参加でき、接触頻度効果が高く、性格や価値観を超えて、信頼関係や互恵関係を作りやすい。
②少人数は、逆に何も働きかけなければ、馴れ合いになったり、“声の大きい人”に影響されやすい⇒しかし信頼関係があれば、建設的な異論・提案は、許されることを確認し、「建設的な異論・提案も出すことがお互いに大事なこと」「異論・意見を出さなくてもよいのか」ということを意識づけていく。
→教師は集団の人間関係づくりを意識するために、無意識に一致することを善としている。
③少人数では、全員への役割分担と責任付与による責任感を意識的に高めやすい。
「責任者が周りに呼びかける」「呼びかけられたら、周りはそれに応える」「責任者任せにせずに、一緒に協力してやる。」という責任者と協力者の関係をすべてにおいて意識させる。
→集団の民主的ルールや学級運営・グループ運営の考え方などを意識的に教えていく。
→密接な人間関係の中で誰もがリーダーになり、建設的な互恵関係を作ることができる。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

（2）集団づくりに不可欠な議論の仕方や司会の仕方を一定程度マニュアル化する

〇集団づくりに不可欠な議論の仕方・司会の進め方・ルールは、どのように指導しているか。またその議論・司会のマニュアルも一定程度提示できるようにしているか。

元々司会等が上手な子どもは、マニュアルがなくても、ある程度アドリブで進められる。
一方で上手ではない子どもは、マニュアル等がなければ、アドリブで進められない。
→ある程度マニュアル化することで、誰もが司会者を担うことができる。

議論や司会の仕方の進め方とルールの提示例

議論の仕方の中でも、特に異論を呈する時が一番やりにくいが、それをできるように学級を運営することが、構成員の一番大事な課題となる。その理念を教師が提示する。

ex.
- 〇相手の立場や意見の重要性を理解した上で、違う意見と理由を述べる
- 〇別の状況の時には違う結論になるという限定法で話す
- 〇「思う」という主張だけでなく、理由・根拠・実行方法を述べる
- 〇必ず異論・反論の時間を作って、違う意見をあえて出してみる
- 〇日常的な人間関係などの感情を持ち込まない
- 〇何となく納得できていない場合には結論を急がない
- 〇どちらか一方で納まらない場合は、妥協案を探す

etc.

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

2． 学級内の多様な役割創設と責任を持った役割分担

〇役割分担と責任を持った学級経営を進めるために、どのように働きかけているか。
〇どのような役割分担を作っているか。どのように責任を持たせているか。

少人数学級では、教師の目が行き届くために、教師の指示が直接入りやすい。→教師主導で学級運営が行われてしまいがち。

↓

人数が少なくても、役割を持たせて自主的に運営させる。

→校内委員会や学級内担当を多様に設定（委員会を多数設定するか、委員会内の役割分担を細かく明記して、多様な役割をつくっていく。）

→活動内容や話し合いの進め方を最初にアドバイス

→子どもたちによる周りの人への提案・点検と呼びかけを促す＝「自分たちでの運営が大事だ」という、自覚と責任

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

日常生活の役割分担と生活ルール　例

1．朝、誰が教室窓開け当番、電気ON当番
2．朝の「職員打合せ」時の自主活動・自習の内容と進め方
3．朝読書の進め方・読み方-指示なしの自習方法
4．朝の司会と進め方、朝の会の内容の工夫（出番・発表・歌・健康チェック）
5．帰りの会の司会と内容（連絡・話・配り物・提出物確認等）
6．授業開始と授業終了時の号令
7．「学習班」の活動内容と約束
8．座席配置の方法と決め方、席替え方法
9．黒板整備役
10．年間行事計画に沿ったフェスティバル等の学習発表会方法
11．特別教室への移動の仕方・準備
12．掃除分担等の役割と分担
13．給食当番と役割・交代方法の決定方法、「いただきます」「ごちそうさま」の号令
14．ノート・家庭学習帳等の生活点検方法
15．配布物の配布・点検方法
16．家庭学習帳の提出・回収方法
17．配布物・通信の配布方法
18．学級係・学級委員・日直の役割の新設提案
19．係活動の活動時間と内容
20．係からの提案・連絡の方法
21．学級会の議題等の提案方法と議題の整理方法
22．児童会・校内委員会の活動内容との関連性
23．司会の当番と記録方法
24．欠席した子どもへの連絡・プリント配布方法
25．休み時間等のけが等の問題発生の連絡方法
26．帰りの整理整頓・消灯方法
27．担任不在の時の全員への指示方法

これらは一例であるが、学級の状況によって多様な役割が考えられる。また子どもからの役割の提案も不可欠である。これらの役割は、教師が行えばすぐ終わる内容も少なくないが、あえて子ども自身に役割を持たせて、自立的に運営していくことが重要である。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

3. 少人数の中でのフォーマルな発言・発表の機会を多くした学級経営

○フォーマルな発言・発表を多くするために、どのような工夫をしているか。

以心伝心でわかり合う少人数のコミュニケーションスタイルを、TPOに応じて使い分け

意識的に個々の子どもが発言・発表・説明できる時間を設定する。

↓

→授業と遊び時間の区別、朝の会・帰りの会の呼びかけ、1分間スピーチ、単元のまとめを行う発表会

→頻繁に学習発表会や学級運営の公開日を設けて保護者・地域住民に見てもらう機会を増やす

→時には、公民館などでの発表会→場所を変えて、フォーマルな雰囲気や緊張感をつくる

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

４．異学年・異世代間を活かした教育活動による社会性の育成

○上級生・下級生の役割をどのように意識させているか。

（1）上級生と下級生の役割を意識させる

○上級生（リーダーとして調整役と[リーダーシップ]を意識させる）
○下級生（上級生に任せきりにしないように[フォロアーシップ]を意識させる）
異学年協働学習＝上級生が下級生に教えることによって学ぶ。日常的に仲の良い小集団内でもフォーマルな場所では上下関係の緊張関係を持たせる。

切磋琢磨の意識的な追究＝上級生に従いながら、上級生を支えていく組織づくり。
→【へき地・小規模校では】 異能力を受け入れる寛容的能力・能力差に応じた役割分担と協業・リーダーシップとフォロアーシップの育成の機会を作りやすい。
→日本的な社会構造の関係の中で異年齢・異能力の人たちとうまく付き合える資質につながる。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

（2）異年齢の異質性・異能力を意識した指導力や社会性を育てる学級経営

〇異年齢・全校生のリーダーシップ・フォロアーシップを意識した教育をどのように進めているか。

1)同年齢集団と異年齢集団の教育的意義を理解する。

・異年齢集団＝異なる能力を前提にした社会集団

・同年齢集団＝似たもの同士がつながることを無意識のうちに前提にする

異年齢関係は、同年齢・同能力の関係とは別の社会的能力→社会性の一つの訓練

（現代の子どもは、同年齢・同能力の子ども同士の関係のみで、異年齢の人と話すのが苦手） ＝同質性が強くなると、異質性を排除する傾向

2)縦割りの異能力の緊張感を活かした意識的な関係づくりを進める。

〇上級学年に、リーダーとして意識させる＝仲が良いからといって、同等に扱わない

複式学級の上級学年のリーダー性を前提にした包容力の意義を子どもに伝える

〇学校内での行事・作業等の協働活動、地域と連携した奉仕活動・公共活動など

→模倣学習とリーダーシップの効果（上級生がリーダーの資質を持ち得ない場合でも、役割を与えていくことで、下級生もリーダーへのフォローの在り方を反省的に考える）

クラス替えもないところでは、異なる人と仲良くするという発想が自然と発生

→妥協・馴れ合いではなくて、違いを受け入れながら、役割分担や相互緊張関係を作る。生きる力の基本として、成長過程におけるこの意義を伝えていく。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

5． 班・委員会等のチーム作りとグループワークの自主ルールの作成

（1）グループ作りと協働性のルールづくり

グループで行動し、グループ全体で責任を補い合うために、3人から5人のチームはチームとして動きやすい。

6人以上になると、活動に参加しない人が出る。一方2人だと多様な意見が出ずにグループになりにくいので、意識的な異論や違う意見を出そうしなければ、極めて馴れ合いになってくる。

グループ活動をすると、必ず一生懸命する人とあまり担わない人が出てくる。また能力的にも差が出る。公平に担いながら、補い合うように、いかに役割分担と協働性を発揮するか、またしない人をどのように引っぱっていくかは、グループの考え方と自己目標・自己管理の方法次第となる。この自己目標・自己管理を意識的に追究させる。

Ⅲ． 学級ルールを踏まえた少人数・複式の学級経営

（2）グループ活動を維持するためのグループ内のルールと活動目標の設定

「グループワーク御触書・十箇条」などを自分たちで時々つくって確認させる。

グループ自主管理ルールの例　ex.

○相手の意見をしっかり聞こうとしていたか
○生の自分経験を語るようにしていたか
○つまらなさそうな表情ではなく、笑顔でみんなと接していたか
○優れた意見に共感・賛成を表明していたか
○話題がそれたときに本題に戻そうとしていたか
○話し合いが楽しくなるように盛り上げようとしていたか
○相手の話に自分の経験からアドバイスしていたか
○グループに溶け込もうとしていたか
○名前だけ貸して、人任せにしたりすることがないように心がけていたか
○積極的に意見を述べようとしていたか
○やるべき作業に積極的に取り組もうとしていたか
○役割分担を決めることができていたか
○行動しない人にきちんと注意できたか、誘うことができたか
○朝寝坊したり、約束時に来ない人がいた場合の対応方法は確認できたか
○各自が用意する資料をそれぞれが持ってきたか

先生方の勇気づけが、子どもたちとへき地・複式・小規模校の未来を担う!

- 全国的な少子化・小規模校化の中では、へき地校が未来の日本の姿となります。
- へき地校は、創造的な教育活動を開発できるカギを握っています。
- へき地・小規模校の良さを生かして、新しい教育の未来を拓いていきましょう。

引用文献:　拙著『豊かな心を育むへき地・小規模校教育-少子化時代の学校の可能性』学事出版

北海道教育大学 へき地・小規模校教育研究センター
センター長・副学長　玉井　康之

これからのへき地・複式・小規模校教育（下）

北海道教育大学　へき地・小規模校教育研究センター
センター長・副学長　玉井　康之

National Institute for
School Teachers
and Staff Development

独立行政法人教職員支援機構